

# 株式会社エージーピー 2021年度第3四半期決算説明資料



空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

2022.1.28

## 1 『長期ビジョン2025』を見据えた行動指針

- 1) 長期ビジョン2025 – 3つの目標 –
- 2) 長期ビジョン2025 – 3本の柱と6つの基本方針 –
- 3) 事業ポートフォリオの考え方

## 2 2021年度第3四半期業績概要

- 1) 業績サマリー
- 2) 業績予想及び期末配当予想の修正について

# 長期ビジョン2025 - 3つの目標 -



長期ビジョンは以下のとおりであるが、成長戦略を実現するための具体的な施策をとりまとめた次期中期経営計画を策定し、持続可能な成長及び企業価値向上を図る（次期中期経営計画は2022年度第1四半期に公表を予定）

## 企業理念

### AGPグループは、技術力を極め、環境社会に貢献します

- ◆ 環境に優しく、安全で豊かな社会の実現に貢献します
- ◆ お客様に選ばれる技術・サービスを誠実に提供し企業価値を高めます
- ◆ 燃える挑戦心を持った社員とともに成長します

#### 業績目標

次期中期経営計画を再設定予定。

（下記は長期ビジョン2025で掲げた業績目標）

- ◆ 売上：200億円
  - ◆ 営業利益率：10%以上
  - ◆ 空港外売上比率：30%以上
  - ◆ 自己資本比率：50%以上堅持
  - ◆ 自己資本利益率：10%以上
- （2014年12月25日公表）

#### 事業目標

外部環境の急激な変化を受け、事業目標をより明確化し、空港外や海外などに事業領域を拡大し、高い技術で環境社会に貢献できる企業を目指す。

- ◆ サービス価値契約へのシフト
  - ◆ 空港外へのサービス展開
  - ◆ 空港内新技術への参画
  - ◆ CO2削減への新たな取り組み（環境）
  - ◆ 次期成長ドライバーの創出
- （新産業, 海外 / 地方, 新サービス/商材等）

#### 組織構造目標

事業構造変革の加速化に合せ、事業数字把握の効率性を高めるため、組織管理/事業運営管理の見直しを図り、経営基盤の一層の強化を図る。

- ◆ 1社化に伴う組織体制見直し及び業務集約
- ◆ 事業目標を達成するための機能強化
- ◆ 新たな管理指標・仕組みの導入
- ◆ 新管理指標に則した権限/責任見直し
- ◆ 次期成長に向けた人材確保と育成
- ◆ 能力/貢献度に基づく人事制度の導入

## 経営戦略：3本の柱

### A 選択と集中

安定した利益の確保と低採算事業の事業性評価やビジネスモデルの見直しと新たな成長事業への経営資源の再配分

### B 事業基盤のシフト

コロナの影響もあり、新規の市場（海外・地方）、新規の産業（物流）への参入、新商材の拡充、多角化を推し進める

### C 経営基盤の強化

「組織体制の整備」、「事業運営管理の適正化」、「財務基盤の強化」により経営基盤の強化を推し進める

## 経営戦略：6つの基本方針

|   |                         |  |   |                   |   |
|---|-------------------------|--|---|-------------------|---|
| ① | 事業戦力の強化                 | 自社の弱みを克服/補完することを目的に、他社との事業提携等を進め、戦力の拡充を図る  | ④ | 事業運営管理の適正化        | 財務会計観点での数字による運営管理から、事業状況の見える化、管理会計観点での実態把握、事業特性に鑑みたKPIモニタリングを行い事業運営管理を高度化                       |
| ② | 高採算化への体質改善<br>(生産基盤の強化) | 運営プロセスの効率化を図るだけでなく、プライシングや契約スキームを見直し収益構造そのものを変えるまた、低採算事業の事業性を再評価し整理をする           | ⑤ | (事業基盤を支える) 技術力の強化 | 空港外や海外、地方といった新たな領域でサービスを提供していくにあたり、外部の技術動向に準じて技術力を強化  |
| ③ | 組織体制の整備                 | グループ会社の一社統合の効果を最大化するために、制度や規程の統一化を図ると共に、売上と利益の責任所在の明確化と人的リソースの流動性確保を目的とした組織再編を行う | ⑥ | 環境貢献の拡充           | GPU促進によるCO2排出削減への取り組みのみならず、その他の“環境社会への貢献”をさらに一歩推し進め、再生可能エネルギーやCO2排出権取引などをテーマに、“環境ビジネス”として事業化を図る |

(注) 『「長期ビジョン 2025」を見据えた行動指針』より

# 事業ポートフォリオの考え方

『「長期ビジョン 2025」を見据えた行動指針』に基づき、当社の中で採算性が高い事業は、業務効率と生産性をさらに高めることに注力するとともに、組織体制を見直し、当社技術を活かせる空港外領域への事業展開等により、新たな事業基盤へのシフトを推し進め、新規市場・産業への参入を目指す。また、選択と集中を進め、経営資源分配を最適化する。



今後は新規の市場（海外・地方）、新規の産業（物流）への参入、新商材の拡充、多角化として環境ビジネスなどを目指して事業基盤のシフトを加速する必要

(注) GSE : Ground Support Equipment (航空機地上支援機材)

(注) 『「長期ビジョン 2025」を見据えた行動指針』より

## 1 『長期ビジョン2025』を見据えた行動指針

- 1) 長期ビジョン2025 – 3つの目標 –
- 2) 長期ビジョン2025 – 3本の柱と6つの基本方針 –
- 3) 事業ポートフォリオの考え方

## 2 2021年度第3四半期業績概要

- 1) 業績サマリー
- 2) 業績予想及び期末配当予想の修正について

1. 2021年度第3四半期連結累計業績は、対前年で減収増益。  
旅客便の回復が想定より遅れているものの、影響を大きく受けた前年から回復し、動力事業は増収。加えて、整備事業においても空港外領域への物流関連設備の施工管理、設備保守等への技術者支援により増収となった。一方で、付帯事業はG S E等販売事業の機材販売の減少等により減収となり、売上高全体では減収となった。
2. 営業費用は、整備事業、G S E等販売事業の減収に伴う原材料費の減少や、業務の効率化による人件費の抑制、管理可能経費の抑制等により大きく減少した。結果、営業増益を確保した。
3. 対計画では、2021年度第3四半期連結累計の売上高は減収となったが、費用削減効果により、営業損失は縮小する結果となった。
4. 雇用調整助成金の受給により、経常利益は大幅に改善する結果となった一方で、動力事業における固定資産の減損損失の計上を行ったことにより、四半期純損益は損失となった。
5. 2021年度第3四半期連結累計業績を踏まえ、**通期の業績予想を修正。**
6. 業績予想を踏まえ、**1株あたり5円の期末配当を実施する。(復配)**



# 2021年度第3四半期業績サマリー



## 連結損益計算書

対前年同期比

(単位：百万円)

|                     | 2020年度<br>3Q累計実績 | 2021年度<br>3Q累計実績 | 増減額  |
|---------------------|------------------|------------------|------|
| 売上高                 | 7,729            | 7,429            | ▲300 |
| 営業費用                | 8,017            | 7,431            | ▲586 |
| 営業損益                | ▲287             | ▲1               | +286 |
| 営業利益率 (%)           | -                | -                | -    |
| 経常損益                | ▲247             | 118              | +365 |
| 四半期純損益 <sup>1</sup> | ▲174             | ▲55              | +118 |

## 連結貸借対照表

対前期末比

(単位：百万円)

|            | 2020年度<br>期末 | 2021年度<br>3Q累計実績 | 増減額    |
|------------|--------------|------------------|--------|
| 総資産        | 14,507       | 14,241           | ▲265   |
| 有利子負債残高    | 1,209        | 1,178            | ▲31    |
| 自己資本       | 9,330        | 9,270            | ▲60    |
| 自己資本比率 (%) | 64.3%        | 65.1%            | +0.8pt |
| ROE (%)    | ▲0.5%        | ▲0.8%            | ▲0.3pt |

自己資本比率は65.1%

(自己資本比率50%程度を目標に財務健全性を維持)

## 売上高内訳<sup>2</sup>

(単位：百万円)

|      | 2020年度<br>3Q累計実績 | 2021年度<br>3Q累計実績 | 増減額   |      |
|------|------------------|------------------|-------|------|
| 動力事業 | 2,498            | 2,739            | +241  |      |
| 整備事業 | 整備事業（空港内）        | 1,814            | 1,606 | ▲208 |
|      | 新規（物流等）          | 180              | 457   | +277 |
|      | 施設事業             | 1,298            | 1,295 | ▲3   |
| 付帯事業 | セキュリティ事業         | 408              | 394   | ▲14  |
|      | フードシステム事業        | 145              | 335   | +189 |
|      | ビジネスジェット支援事業     | 167              | 183   | +16  |
|      | 小売電気事業           | 166              | 167   | +1   |
|      | 工場野菜生産・販売事業      | 68               | -     | ▲68  |
|      | GSE等販売事業         | 981              | 251   | ▲730 |
| 合計   | 7,729            | 7,429            | ▲300  |      |

雇用調整助成金1億37百万円の受給により経常損益は利益となった一方で、減損損失1億73百万円の計上により、四半期純損益は損失となった。

1 四半期純損益は親会社株主に帰属する四半期純損益

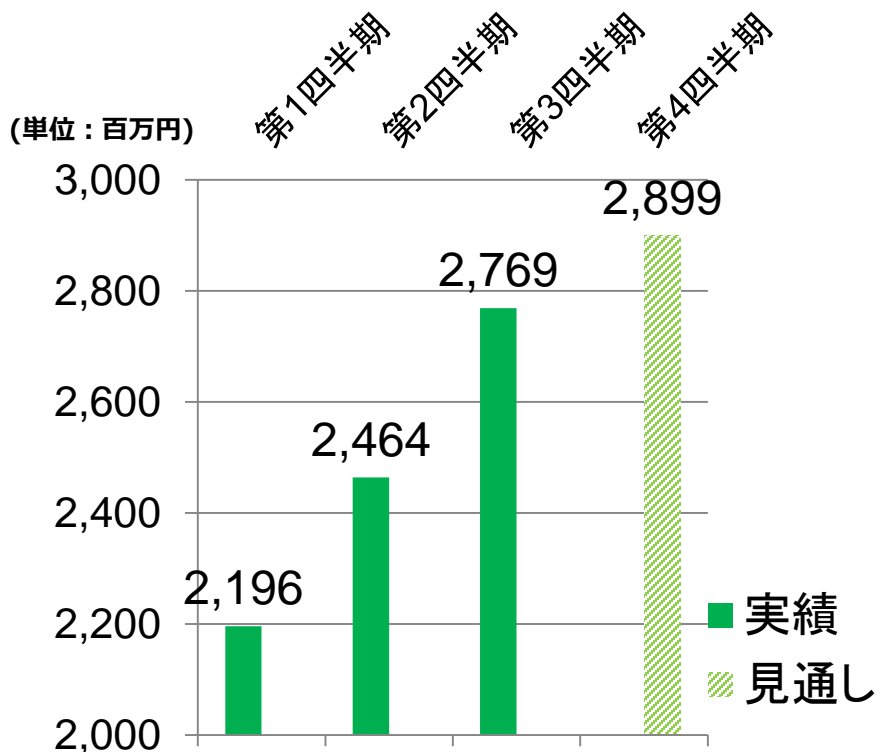
2 売上高の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示  
制度会計では整備事業と施設事業と新規事業を合わせて整備事業セグメント、セキュリティ事業・フードシステム事業・ビジネスジェット支援事業・小売電気事業・GSE等販売事業を合わせて付帯事業セグメントとしている



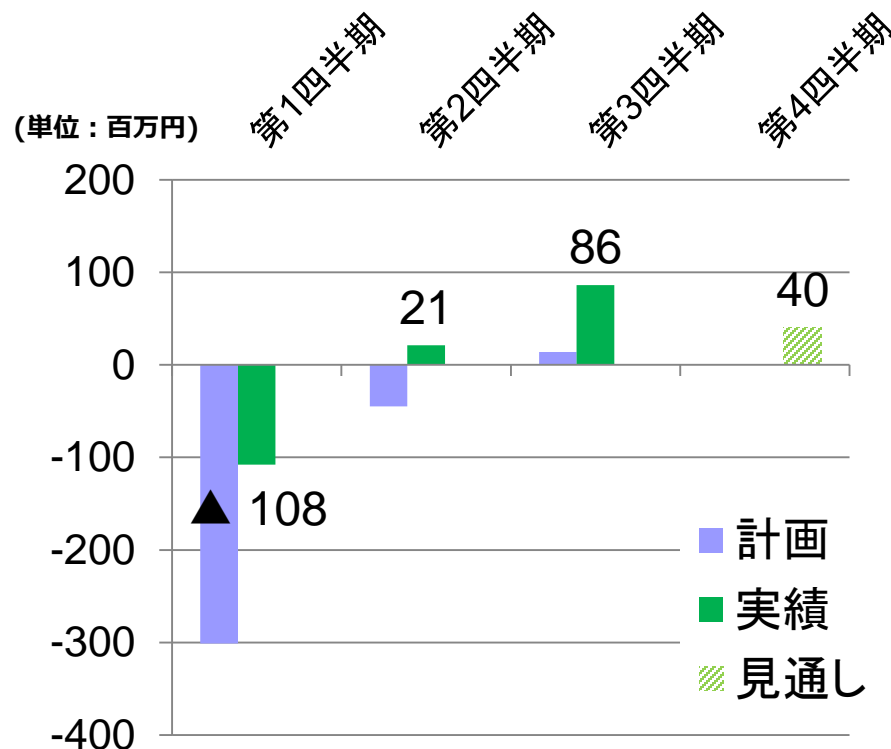
# 四半期売上高及び営業損益の対計画進捗

動力事業における供給率の低下に加え、GSE等販売事業の機材販売減少等により全体での売上高は減収となっている一方で、整備事業における空港内の計画想定以上の回復および空港外領域（物流等）での増収や、業務の効率化による人件費の抑制、管理可能経費の抑制等により営業損失は減少。

各四半期業績（売上高）



各四半期業績（営業損益）



注) 第4四半期は売上・利益ともに業績予想修正後の計画値

# 2021年度業績予想及び期末配当予想の修正について



当社は、新型コロナウイルスの感染拡大の具体的な影響や今後の見通しを見積もることが困難であったことから、2021年5月10日に発表しました通期業績予想を修正しておりませんでした。

このたび、引き続き不透明な要素が多い状況下ではありますが、整備事業における空港内の計画想定以上の回復や空港外領域（物流等）での増収に加え、雇用調整助成金の受給及び減損損失の計上を踏まえ、通期の業績予想を修正いたしました。

## ◆ 連結業績予想数値

(単位：百万円)

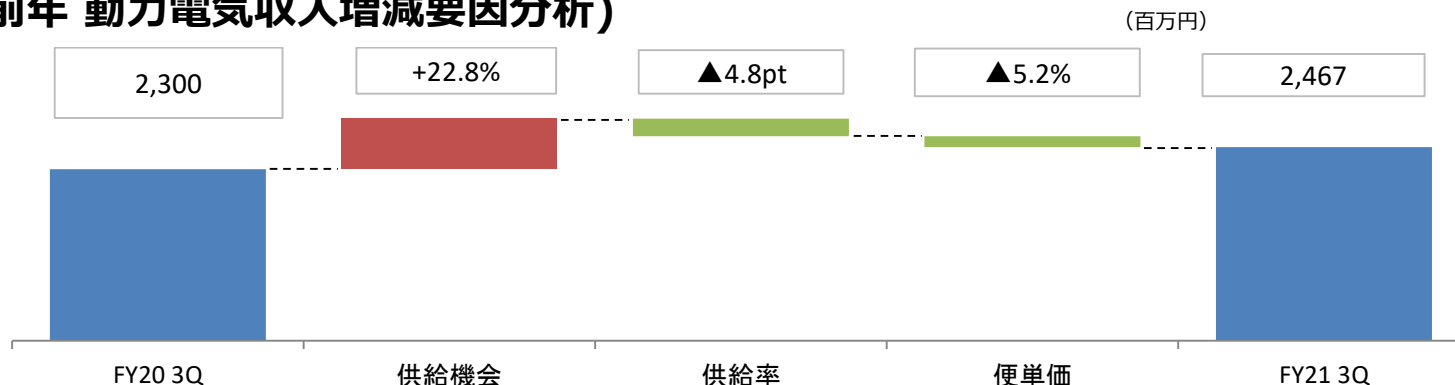
|                    | 前回発表<br>予想 | 今回修正<br>予想    | 増減額  |
|--------------------|------------|---------------|------|
| 売上高                | 10,710     | <b>10,328</b> | ▲381 |
| 営業費用               | 10,897     | <b>10,289</b> | ▲607 |
| 営業損益               | ▲187       | <b>39</b>     | +226 |
| 営業利益率 (%)          | -          | <b>0.3%</b>   | -    |
| 経常損益               | ▲197       | <b>154</b>    | +351 |
| 当期純損益 <sup>1</sup> | ▲54        | <b>▲69</b>    | ▲15  |

<sup>1</sup> 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

## ◆ 期末配当予想の修正について

連結業績予想において、当期純損益は69百万円の損失を見込んでおりますが、経常損益は1億54百万円の利益を見込んでいることにより、当期におきましては、1株当たり5円の期末配当とすることになりました。

## (対前年 動力電気収入増減要因分析)



【Q3】

FY20 / FY21 3Q 電気収入比較

|       | 電気 売上 (百万円) |         |     |        | 供給機会<br>対前年比 | 供給率<br>前年差 | 便単価<br>対前年比 |
|-------|-------------|---------|-----|--------|--------------|------------|-------------|
|       | FY20 3Q     | FY21 3Q | 差異  | 対前年比   |              |            |             |
| 国内FSC | 1,899       | 2,028   | 129 | 106.8% | 122.1%       | ▲4.8pt     | 94.6%       |
| 国内LCC | 100         | 111     | 11  | 111.2% | 140.1%       | ▲2.7pt     | 86.0%       |
| 外航FSC | 299         | 323     | 24  | 108.2% | 112.3%       | ▲4.1pt     | 102.8%      |
| 外航LCC | 2           | 5       | 3   | 229.7% | 103.6%       | 36.7pt     | 96.0%       |
| 全体    | 2,300       | 2,467   | 167 | 107.3% | 122.8%       | ▲4.8pt     | 94.8%       |

### 【FY20 / FY21 3Q要因分析】

- ・現状分析> 国内線を中心に旅客便に回復傾向が見られ、供給機会は増加。  
(国内線 供給機会 (便数) FY20 3Q : 296,847→FY21 3Q : 362,247 【対前年65,400増加】 )  
国際線は、外国訪日客の入国制限等で回復に遅れ。  
(国際線 供給機会 (便数) FY20 3Q : 63,744→FY21 3Q : 80,573 【対前年16,829増加】 )
- ・課題> 航空会社は、コロナ禍で感染防止を目的とした機内換気を推し進めたことでAPUの使用が増加、結果として供給率の低下を招いている。
- ・対策> 機内換気を図る上で、当社空調設備の安全性が高いこと、且つ、環境負荷の低減に大きく寄与することを供給率の低下している航空会社に対して営業展開中。

### 【11月25日】

- 株式会社東京証券取引所の市場区分に関して、スタンダード市場を選択する申請書を提出

### 【12月23日】

- 新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書を作成
  - ※当社は、移行基準日時点（2021年6月30日）において、当該市場の上場維持基準を充たしていないことから、下記の通り、新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書を作成しました。
    - ・新市場区分における上場維持基準への適合状況及び計画期間
    - ・上場維持基準の適合に向けた取組の基本方針、課題及び取組内容
- コーポレート・ガバナンスに関する報告書を提出
  - ・基本的な考え方及び資本構成、企業属性その他の基本情報
  - ・経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況
  - ・株主その他の利害関係者に関する施策の実施状況
  - ・内部統制システム等に関する事項、その他

当資料に記載されている事業名は管理会計用。開示用に作成している連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業、施設事業、新規事業をまとめて整備事業とし、セキュリティ事業、フードシステム事業、小売電気事業、ビジネスジェット支援事業、GSE等販売事業をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

## お問い合わせ先



株式会社エージーピー 経営企画部

電話: 03-3747-1638

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp/>